

講義名	管理会計論			授業形態	
担当教員	早川 翔	開講期・曜日・時間	後期 月曜日 3 時限		
		単位数	2	履修開始年次	3 年生

主題と概要

管理会計は、社長から部長レベル、そして現場の第一線で活躍する従業員まで、企業「内部」の人々に情報を提供するための会計です。企業内部の人々は、さまざまな経営上の問題を解決するために管理会計情報を利用します。本講義では、企業内において管理会計情報がどのように利用されているのかについて学習していきます。

到達目標

- (1) 従業員の成果を測定したり従業員を動機づけるうえで、会計情報をどのように利用することが望ましいかが理解できるようになる。
- (2) 複数の投資案を比較する状況など、経営上の意思決定を行う上で会計情報をどのように利用すべきかが理解できるようになる。
- (3) BSCやアメーバ経営などユニークな管理会計システムの特徴について学習することで、マネジメントにおいて管理会計システムが果たす役割が理解できるようになる。

提出課題

毎回の講義で授業内容にもついた練習問題を課します。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

次回の授業の練習問題について解説します。

評価の基準

期末試験（100%）で評価を行います

履修にあたっての注意・助言他

- ・授業では計算問題を扱うことがあるため電卓が必要です。

教科書

・使用しない。

参考図書

・なし。

その他

授業計画

15回の授業を実施したのち、期末試験を実施します

- 第 1 回 管理会計とは何か？
 予習内容：管理会計とは何か調べておく（120 分）
 復習内容：講義プリントを整理・復習し、授業内容の理解を深めること（120分）
- 第 2 回 原価の基礎概念
 予習内容：原価が管理会計においてどのような役割を果たすか調べておく（120 分）
 復習内容：講義プリントを整理・復習し、授業内容の理解を深めること（120分）
- 第 3 回 OVP分析
 予習内容：企業においてOVP分析がどのような役割を果たすか調べておく（120 分）
 復習内容：講義プリントを整理・復習し、授業内容の理解を深めること（120分）
- 第 4 回 予算管理と責任会計
 予習内容：予算管理とは何か調べておく（120 分）
 復習内容：講義プリントを整理・復習し、授業内容の理解を深めること（120分）
- 第 5 回 直接費の差異分析
 予習内容：差異分析とは何か調べておく（120 分）
 復習内容：講義プリントを整理・復習し、授業内容の理解を深めること（120分）
- 第 6 回 製造間接費の差異分析
 予習内容：製造間接費の差異分析方法について調べておく（120 分）
 復習内容：講義プリントを整理・復習し、授業内容の理解を深めること（120分）
- 第 7 回 稼働率差異と販売数量差異
 予習内容：稼働率差異と販売数量差異について調べておく（120 分）
 復習内容：講義プリントを整理・復習し、授業内容の理解を深めること（120分）
- 第 8 回 原価変動の決定要因
 予習内容：原価はどのように変動するのか、調べて自分の考えを持っておく（120 分）
 復習内容：講義プリントを整理・復習し、授業内容の理解を深めること（120分）
- 第 9 回 差額分析
 予習内容：差額分析はどのように利用すべきかを調べておく（120 分）
 復習内容：講義プリントを整理・復習し、授業内容の理解を深めること（120分）
- 第 1 0 回 顧客収益性分析
 予習内容：顧客収益性分析はどのように利用すべきかを調べておく（120 分）
 復習内容：講義プリントを整理・復習し、授業内容の理解を深めること（120分）
- 第 1 1 回 複数製品に対する差異分析
 予習内容：差異分析と複数製品に適用する際にどのような課題が発生するか調べておく（120 分）
 復習内容：講義プリントを整理・復習し、授業内容の理解を深めること（120分）
- 第 1 2 回 資本予算（正味現在価値法と内部収益率法）
 予習内容：貨幣の時間価値とは何か調べておく（120 分）
 復習内容：講義プリントを整理・復習し、授業内容の理解を深めること（120分）
- 第 1 3 回 資本予算（回収期間法と発生主義会計収益率法）
 予習内容：回収期間法とは何か調べておく（120 分）
 復習内容：講義プリントを整理・復習し、授業内容の理解を深めること（120分）
- 第 1 4 回 事業部の業績評価と利益調整
 予習内容：事業部の業績評価を行う上で考慮すべき要因について調べておく（120 分）
 復習内容：講義プリントを整理・復習し、授業内容の理解を深めること（120分）

授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

本科目が定める目標(1)～(3)は、本学経営学科の共通DPに貢献する。これらの目標を達成することで、企業においてどのように管理会計システムを構築すべきかを考えるための知識が身につく。これらの知識は、企業マネジメントにおける問題探索や課題提案に役立つ。目標(1)～(3)は会計コースのDPに貢献する。管理会計システムは、情報実態のための会計システムである。(1)～(3)の達成により、企業が直面する問題や企業の強みを発見し、経営戦略の構築に貢献できる。また、目標(1)～(3)は総論・事業計画のDPにも貢献する。管理会計システムは、戦略実施のための会計システムである。(1)～(3)の達成により、起業や事業承継、社内ベンチャーにおいて必要となる影響やビジョンを具体的な事業計画に落とし込むプロセスについて理解できる。

目標(1)～(3)は、本学マーケティング学科のDPにも貢献する。これらの目標を達成することで、企業においてどのように管理会計システムを構築すべきかを考えるための知識が身につく。これらの知識は、企業マネジメントや流通における問題探索や課題提案に役立つ。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

実務経験の有無及び活用

備考